

2014年6月26日

アメリカ経済を知る！ 第14回（最終回）

全4頁

拡大しつつ変容するアメリカ人

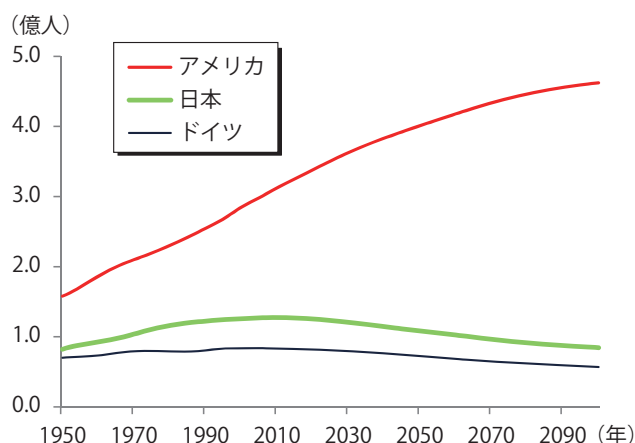
ニューヨークリサーチセンター
エコノミスト 笠原 滝平
上野 まな美

1950年に約1億5,200万人であったアメリカの人口¹は増加が続き、2010年の国勢調査によると、約3億900万人となっています。この人口は世界第3位で、世界の5%程度に相当します。PRB（Population Reference Bureau）は、「アメリカの人口は増加、高齢、多様になっている」と表しているように、人口が増えているだけでなく、年齢や人種など人口構成も変化を遂げています。

1 増加する人口

1950年から現在にかけて、人口が約2倍になったアメリカは、他の先進国と比較しても増加が顕著です。たとえば、日本の人口は同期間に約50%増加し、ドイツでは約20%増加しました。国際連合の予測によれば、日本やドイツの人口は減少が見込まれているのに対して、アメリカの人口は今後も増加が続き、2100年には約4.6億人となることが予想されています（図表1）。

図表1 先進国の人口推移と予測



(注) 2010年以降は国際連合の中位推計予測値。

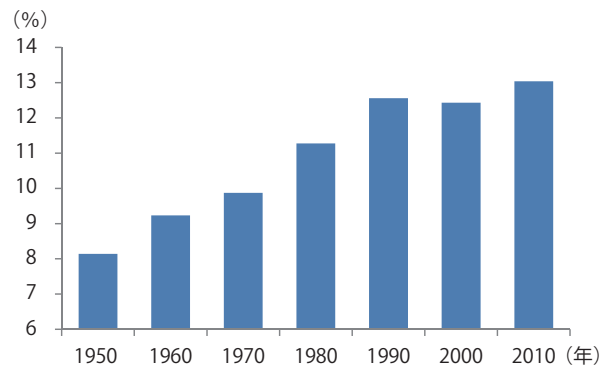
(出所) 国際連合より大和総研作成

1) ここでの人口はアメリカ国籍を持つものではなく、アメリカに居住する者を指す。

2 高齢化する人口

日本で社会問題となっている高齢化は、アメリカでも進んでいます。総人口に占める65歳以上の人口の割合が増加し、人口の中央値年齢も上がっています。65歳以上の高齢者の割合は1950年に8%程度でしたが、2010年には13%へと上昇しています(図表2)。国勢調査局(Census)によれば、今後も65歳以上の割合は上昇が続く見込みで、2060年には22%に達することが予想されています。背景には、1946年から1964年にかけて誕生したベビーブーム世代が高齢化することや、平均余命の伸びなどが影響しています。

図表2 65歳以上人口の割合



(出所) アメリカ国勢調査局より大和総研作成

3 人種と民族が多様化する人口

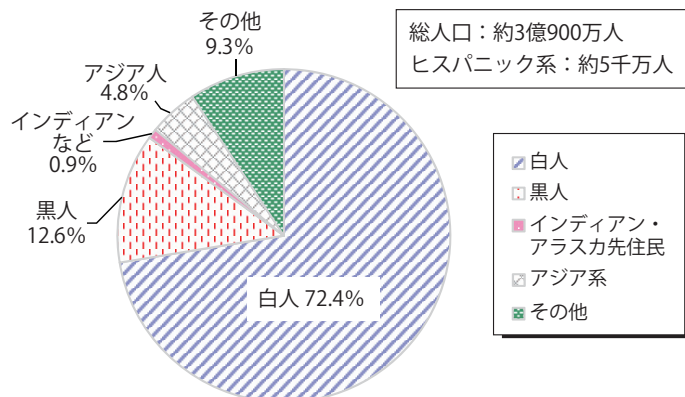
3-1 人種構成

OMB(行政管理予算局)は、1997年より、アメリカの主要人種を以下の5グループに分類しています。

- ①白人：ヨーロッパ、中近東、北アフリカ血統の人
- ②黒人：アフリカの黒人人種の血統の人
- ③インディアン、アラスカ先住民：中米を含む北米、南米の先住民の血統の人
- ④アジア系：極東、東南アジア、インド亜大陸の血統の人
- ⑤ハワイ先住民、他の太平洋諸島：ハワイ、グアム、サモア、他の太平洋諸島の先住民の血統の人

ヒスパニック/ラテン系アメリカ人という言葉が頻りに聞かれますが、ヒスパニック/ラテン系は、人種(Race)ではなく、民族(Ethnic)です。ヒスパニック/ラテン系は、プエルトリコ人、南米、中米、その他のスペイン系文化またはスペイン系の血統の人、と定義されています。

図表3 人種別人口構成(2010年)



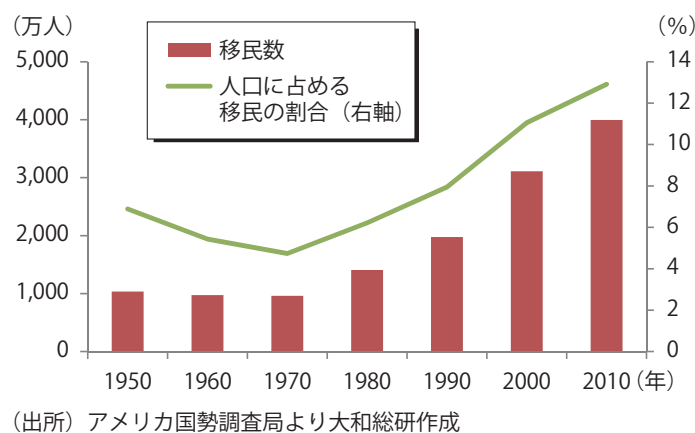
(注) その他はハワイ先住民、他の太平洋諸島、混血などが含まれる。
(出所) アメリカ国勢調査局より大和総研作成

3-2 移民の増加

アメリカは歴史的に移民によって築かれた国であり、現在も移民（生まれたときからアメリカ合衆国市民でない者）の流入が続いています。人口に占める移民の割合は13%程度で、約4,000万人にのぼります。移民の出身地域も時代とともに変化しています。国勢調査局によると、1960年時点の移民1,000万人程度のうち75%がヨーロッパ出身でしたが、2010年には移民の約53%がラテンアメリカ、約28%がアジア出身でした²。

人種や民族間における出生率にも差があります。CDC（Centers for Disease Control and Prevention）によれば、2012年の白人の合計特殊出生率は1.76であったのに対し、ヒスパニック／ラテン系は2.19、黒人は1.90でした。つまり、ヒスパニック／ラテン系移民などマイノリティは人口流入ペースが速いことに加えて、出生率も高いことから米国内での人口増も考えられます。

図表4 移民の推移



3-3 アメリカの人種・民族構成の将来予想

このように、移民の流入や出生率の差などによって、アメリカの人種・民族の構造は変化を遂げています。2000年のアメリカの人口の約75%が白人でしたが、2010年には約72%に低下しました。白人の割合は低下が続いており、国勢調査局によれば、2060年には69%に低下することが予想されています。一方で、黒人やアジア系など、現在マイノリティである人種の割合は高くなる見込みです。民族では、ヒスパニック／ラテン系の割合が大きく上昇することが予想されており、2010年時点で16%程度だったヒスパニック／ラテン系の割合は、2060年には30%を超える見込みです。

2) http://www.census.gov/how/infographics/foreign_born.html

4 人口構成の変化による影響

人口構成の変化は、経済や社会の将来を形成する上で重要です。まず、人口とともに生産年齢人口の増加が予想されており、アメリカ国内の生産量の拡大を促すこととなります。また、人口の増加は、個人消費や住宅投資などの国内需要を拡大させることも考えられるでしょう。一方で、アメリカでも高齢化が進むことから、政府などの負担が増加することが見込まれます。高齢者は、公的年金であるソーシャルセキュリティ（Social Security）と公的医療保険であるメディケア（Medicare）の対象になるため、政府の財政支出が拡大するとみられます。

人種・民族構成の変化も予想され、これまでは白人中心の社会でしたが、徐々にその構造が崩れており、すでに選挙など政治も変化しつつあります。たとえば、2008年の大統領選挙で黒人初の大統領となった民主党・オバマ大統領が当選した要因の一つに、黒人やヒスパニック／ラテン系などからの投票率の高さが挙げられます。2012年の大統領選挙でもオバマ大統領が再選されたことなどから、共和党もヒスパニック系／ラテン系などマイノリティ有権者の対策の修正が求められています。

また、不法移民に関する議論も活発になっています。現在、約1,100万人いると言われている不法移民などの対策として、オバマ大統領が2011年5月に移民制度改革に関するプランを発表しました³。2013年6月には、民主党が多数派を占める上院において、不法移民の合法化などを盛り込んだ移民制度改革法が可決されました。一方で、野党である共和党には不法移民の合法化に否定的な意見があり、先んじて国境警備を強化する方針であるため、現時点で共和党が多数派を占める下院において移民制度改革法は可決されていません。移民制度改革法は不法移民の合法化だけでなく、高技能の労働者向けビザの発給を増やすなど、新たな労働者の流入も期待されます。CBO（議会予算局）の試算では⁴、移民制度改革法が成立すれば、労働者が増加することなどから、上述のように懸念されている公的年金や公的医療保険など財政負担の軽減や、経済拡大の可能性があるとされています。米国の人口動態や経済の将来に影響を与える同法案の行方が注目されます。

（以上）

3) White House“Building A 21st Century Immigration System”2011年5月
http://www.whitehouse.gov/sites/default/files/rss_viewer/immigration_blueprint.pdf

4) CBO“The Economic Impact of S.744 the Border Security, Economic Opportunity, and Immigration Modernization Act”2013年6月
<http://www.cbo.gov/sites/default/files/cbofiles/attachments/44346-Immigration.pdf>